

ある日、私が冷蔵庫を開けるとそこには賞味期限が一ヶ月切れた納豆三パックが置いてあった。母に見せると母はすぐにゴミ箱にそれを捨てた。別の日、食卓にとうに賞味期限が切れ、酸っぱくなったキムチが出された。父が一口食べるとすぐにキムチはゴミ箱に消えていった。こんな風に私の家では手もつけられずに廃棄された食品が多々あった。

私は廃棄された食品を処理するのにどれほどの費用がかかるのかが気になりウェブで調べてみると、そこには衝撃の内容が記載されていた。食品ロスの発生場所は主に二つある。一つは小売店での売れ残りや、飲食店での食べ残し、規格外品の廃棄といった「事業系食品ロス」。もう一つは家での食べ残しや使わずに捨てられるなどの「家庭系食品ロス」。この二つ目の家庭系食品ロスの処理費用は私たちの納めている税金から年間八千億円使用されているというのだ。よく、周りの大人たちが「税金が上がるのは困る」「これ以上負担をかけないでほしい」と言っているのを耳にする。私はこんな言葉に疑問を持たずにはいられない。税金が上がる理由は少なからず私たちの生活が関係しているからだ。私は食品ロスの問題を取り上げたが、その他にも私たちの行為が税金に影響を及ぼしていることは多々ある。逆にいうと、様々なロスを減らすなど私たち自身が生活を見直すことで、その分の税金を別の目的に当てることができるのだ。

税金はいろいろな場面で私たちの生活が豊かになるように使われている。公立の小中学校の教科書やパソコンなどは税金によって買われている。また、医療費や消防、警察の活動、ゴミの回収、さらにはODAの活動や宇宙開発、科学技術の研究のためにも税金は活用されているのだ。税金がなくなれば、私たちは悪状況の中で生活しなければならず、世界が良い方向へと進化していくこともなくなってしまふ。それほど税金は私たちの暮らしには欠かせない存在であるのだ。私の家ではフードロスと税金の現状を知ってから、買ったものはできるだけ早くに食べきり、スーパーやコンビニに売っている商品は前から取るようにしている。このように税金を守り、より社会のために役立てていくには、私たち一人一人の意識と少しずつの努力が必要だ。それにより税金を身近に感じ、税金が私たちの生活にもたらす利益もより深く知ることができると思う。